

第7回 日本臨床薬理学会 九州・沖縄地方会を終えて

九州大学病院 薬剤部
廣田 豪, 家入 一郎

会 期：2023年7月15日（土）8：55～17：55
会 場：九州大学医学部 百年講堂（福岡市）
会 長：家入一郎（九州大学病院 薬剤部）
テーマ：治験・臨床研究を科学的に進めるために求められる PK/PD/PGx 的視点

1. 開催概要

第7回日本臨床薬理学会 九州・沖縄地方会は、テーマを「治験・臨床研究を科学的に進めるために求められる PK/PD/PGx 的視点」とし、2023年7月15日（土）に九州大学医学部 百年講堂において開催した（Photo. 1, Figure 1）。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に引き下げられ、社会活動が再活性化されてきたことを受け、「第4回日本臨床薬理学会 九州・沖縄地方会」以来の久しぶりの対面のみでの開催となった。本地方会では、全国各地から、大学教員や臨床研究や治験に携わる医療関係者やCRCなど135名の方々にご参加いただいた（Figure 2）。

プログラムとしては、特別講演、シンポジウム、教育講演、一般演題（7演題）、ランチョンセミナーなどを企画した。新たな試みとして、若手臨床薬理研究者による研究発表をシンポジウム形式（シンポジウム2）で取り上げた。九州地区国立大学病院薬剤部で行われている医薬品個別適

正化使用を目的とした基礎・応用研究成果を発表いただき、若手研究者の熱意に触れる機会として企画した。プログラムの構成にあたっては、教育講演において薬物トランスporterについての最新の基礎研究の成果から始まり、シンポジウム1において「治験を効率的かつ科学的に進め



Photo. 1 会長挨拶 家入一郎先生



Figure 1 ポスター

著者連絡先：廣田豪 九州大学病院薬剤部 〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1
TEL：092-642-5920 E-mail：thirot@phar.kyushu-u.ac.jp
投稿受付 2023年8月31日，掲載決定 2023年9月21日

ISSN 0388-1601 Copyright：©2023 the Japanese Society of Clinical Pharmacology and Therapeutics (JSCPT)

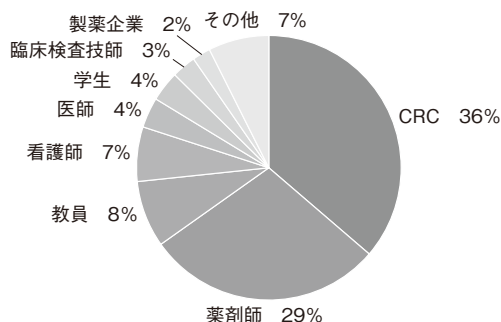


Figure 2 参加者の職種 (n=135)

るためには」をテーマとすることで、治験・臨床研究における科学的なアプローチにフォーカスを当てた内容とした。

2. 特別講演

大戸茂弘先生(九州大学大学院 薬学研究院)に「時間薬理学に立脚した創薬育薬研究」と題し、講演いただいた。先生が世界に先駆けて確立したクロノケミカルバイオロジー技術(化合物と反応-時間-局在に着目した時空間解析技術)を駆使した研究を紹介いただき、九州大学大学院薬学研究院における時間創薬研究および時間育薬研究に関する最新の研究成果とその展望について、わかりやすく解説いただいた(Photo. 2)。

3. 教育講演

教育講演では、本地方会でテーマとして掲げた「治験・臨床研究を科学的に進める」における基盤となる基礎的な研究成果をご紹介いただくため、2名の先生にご講演いただいた。楠原洋之先生(東京大学大学院 薬学系研究科)からは「薬物動態における肝・腎のトランスポーターの重要性と薬物相互作用」と題して、個々の薬物トランスポーターの機能と併せて、薬物相互作用の評価に供するバイオマーカーについてご教示いただいた(Photo. 3)。玉井郁巳先生(金沢大学医薬保健研究域 薬学系)からは「ヒトにおける消化管・血液脳関門に発現する薬物トランスポーターの重要性」と題して、消化管における薬物トランスポーターを介した吸収阻害や血液脳関門における排出型トランスポーターに着目した相互作用について、最新の研究成果をご紹介いただいた(Photo. 4)。

4. ランチョンセミナー

田辺三菱製薬株式会社・日本イーライリリー株式会社との共催により開催されたランチョンセミナーでは、坂本竜一先生(九州大学病院 内分泌代謝・糖尿病内科)に「糖尿病早期治療強化の重要性とその実践のためのアプローチ」について、ご講演いただいた。糖尿病における10年先を見据えた早期治療の重要性について、AIを用いた研究などの



Photo. 2 特別講演 大戸茂弘先生

最新の知見を含めた大変有意義な講演内容であった。

5. シンポジウム

シンポジウム1「治験を効率的かつ科学的に進めるためには」では、4名の先生にご講演いただいた。谷河賞彦先生(バイエル薬品株式会社 オンコロジー開発)に「後期臨床開発における臨床薬理の役割」について、寺尾公男先生(中外製薬株式会社 トランスレーショナルリサーチ本部)に「薬物動態から読み解く医薬品開発」について、近藤良仁先生(シミックヘルスケア・インスティテュート株式会社)に「臨床試験の地域ネットワーク構想」について、松崎幸恵先生(医療法人相生会 墨田病院)に「第I相試験への女性被験者の組入れを考える」について、それぞれご講演いただき、活発な議論が行われた。

シンポジウム2では、九州・沖縄地方会の新たな試みとして「次世代の会ミニシンポ：若手病院薬剤師の相互研鑽による臨床薬理の進展と患者治療への還元」と題して4名の若手の先生方にご講演いただいた。橘川奈生先生(佐賀大学医学部附属病院 薬剤部)に「データ駆動型研究から臨床研究への発展～抗潰瘍薬によるせん妄リスク回避に向けて～」について、小野寛之先生(大分大学医学部附属病院 薬剤部)に「Coproporphyrin-Iを指標とした病態時におけるOATP1B活性個人差の要因解析」について、三宅俊介先生(熊本大学病院 薬剤部)に「腫瘍抑制遺伝子CYLD発現低下に着目した悪性腫瘍の新規個別化治療法の探索」について、吉川直樹先生(宮崎大学医学部附属病院 薬剤部)に「治療薬物モニタリングを深化させ合理的個別化薬物治療の進化を目指す臨床薬理研究」についてご講演いただき、九州各県における若手病院薬剤師の活発な研究活動の成果が示された。

6. 一般演題

一般演題では、荻野敬史先生(九州大学病院 薬剤部)に「ダカルバジンの血管痛抑制を目的とした既存薬の応用研



Photo. 3 教育講演 楠原洋之先生



Photo. 4 教育講演 玉井郁巳先生

究」について、米丸興先生（熊本大学大学院 薬学教育部）に「腫瘍抑制遺伝子 CYLD 発現低下・予後不良の口腔癌患者に対する新規分子標的治療の確立」について、大坪百合華先生（大分大学医学部）に「ドローンによる指定避難所への医薬品輸送：ドクターヘリのランデブーポイントを活用した大分モデルの提言」について、潮平英郎先生（琉球大学病院 薬剤部）に「肝移植後に COVID-19 を合併し抗 SARS-CoV-2 薬との薬物相互作用を生じた一例」について、田畑香織先生（九州大学大学院 薬学研究院）に「血清由来エクソソームを介した血液脳関門細胞における MRP4 の発現変動解析」について、猿渡淳二先生（熊本大学大学院生命科学部 薬物治療学分野）に「うつ病患者の治療反応性予測：パロキセチン服用後の改善率に関する母集団薬物動態-薬力学解析」について、有馬太陽先生（鹿児島大学病院 薬剤部）に「ラット初代後根神経節細胞を用いた細胞外電位計測によるオキサリプラチン急性毒性の評価」についてご発表いただいた。基礎研究、臨床研究、社会実装に向けた研究など非常に多岐にわたる内容の発表であり、それぞれ活発な質疑応答が行われた。

なお、厳正なる審査の結果、荻野敬史先生と米丸興先生

の2名が優秀発表賞に選出され、表彰された。

7. おわりに

第7回日本臨床薬理学会 九州・沖縄地方会は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後に行われた。多くの参加者にとって久しぶりの対面での学会参加となったためか、どのプログラムにおいても、非常に熱気が溢れ、活発な質疑応答が行われたように思われる。シンポジウムを中心に、医師、看護師、薬剤師、製薬企業間で共有すべき内容を含めた形となり、議論を通して理解が深まる機会となったのではないかと考えている。

次回2024年は、熊本大学病院 薬剤部 齋藤秀之先生のもとで開催される予定であり、更なる盛会となることを祈念する。

最後に第7回日本臨床薬理学会 九州・沖縄地方会の開催にあたり、日本臨床薬理学会本部、日本臨床薬理学会九州・沖縄地方会世話人の先生方、協賛企業各社、運営に携わっていただいた多くの方々のご支援・ご協力により成功裡に終えることができた事を、心より御礼申し上げます。